

大学名 鹿児島大学

第67号 特集テーマ「大学と新しい学び」

表題 異分野連携コミュニティ・ベースド・ラーニング：外海離島における保農獣工連携家庭訪問プロジェクト

特色ある取組

鹿児島大学は、高度共通教育科目「Kagoshima de SDGs」を開講し、「離島における保農獣工連携家庭訪問一人間・作物・動物・集落の健康のための三島村プロジェクト」コースを位置付けている。隔絶性の高い離島で暮らす芋農家および畜産農家の住民宅に、保健学・農学・獣医学・工学の学生が合同で家庭訪問を行い、それぞれの専門の立場から現在の対象者の「暮らし」をアセスメントし、連携して離島の農家家庭の課題を共有し発見することが目的。

コロナ禍のため、家庭訪問は教員数名で行い、4部局9名の学生がキャンパスに集合して、2名の対象者とオンラインで繋いだ。芋・みかん畑や畜産の様子、家屋や集落の環境、本人や家族の健康状態等について、対象者へのインタビューと暮らしの観察を行い、グループワークを実施。対象者と役場職員を交えて発表と討論を行った。「繁殖回数が多い」「台所の素材が可燃性で危険」「獣医の診察が少なすぎ」「仕事時の姿勢や持病の管理が課題」等が各分野で出され、「資源不足」「力強い生き方」「行政の支援」が共通課題として挙げられた。学生は、他分野の視点を新鮮に捉え、視野を広げると共に、自らの専門性についても理解を深めた。

三島村の牛は、自生している竹を餌とし、みかん畑は山の傾斜に沿っており、まさにSDGsの実践と言える。今後は、海外協定校を交えたグローバルな視点でのローカル教育に発展させていく。

(参考URL)

鹿児島大学HP

<https://sdgs.kuas.kagoshima-u.ac.jp/example/517/>

鹿児島大学医学部保健学科HP

<https://www.kufm.kagoshima-u.ac.jp/~health/about/activity/student-life/352-4-2.html>

芋生産者にインタビューする4部局の学生たち



牛に見守られながらインタビューに応じる畜産家